

報 告

昭和五十二年大会の概況 日本思想史学会の昭和五十二年大会は、十月八日(土)・九日(日)・十日(月)の三日間にわたり、仏教大会を会場として開催された。

第一日・第二日は総会並びに研究発表が行なわれた。第一日は「日本思想史における「超越者」観念の展開」と題して主題発表が行なわれた。主題発表の分担テーマと発表者は次のとおりである。

- 1、神道における「超越者」観念の展開
国学院大学講師 安蘇谷 正彦
 - 2、日本仏教における「超越者」観念の展開
仏教大学助教授 高橋 弘次
 - 3、日本儒教における「超越者」観念の展開
愛知教育大学助教授 三宅 正彦
 - 4、日本キリスト教における「超越者」観念の展開
東京女子大学教授 小川 圭治
 - 5、民間信仰における「超越者」観念の展開
筑波大学助教授 宮田 登
- なお、司会者は伊藤唯真(仏教大学教授)・笠井昌昭(同志社大学教授)・源了圓(東北大学教授)の三氏であった。主題発表の終了後六時より京都プリンスホテルにおいて懇親会が催された。
- 大会第二日は、研究発表並びに総会が行なわれた。第二日午前は二会場に分れて研究発表が行なわれたが、研究発表者とテーマは次のとおりである。
- 1、わが国の仏教受容と造型理念 大分大学助手 新川登亀男
 - 2、儒教的・仏教的罪意識のめざめ―世間虚仮の底流―
小山 恵子
 - 3、神今食の成立についての試論 東北大学大学院 黒崎 輝人

4、続日本紀の緯書思想 小山工業高等専門学校講師

5、日本靈異記の宇宙観―「聖霊」をめぐる― 松島 隆裕

6、古代六道絵の思想的背景―その多様性の問題―
岡山ノールダム清心女子大学助手 八重樫直比古
同志社大学大学院 竹居 明男

右の研究発表終了後、総会が開かれた。事務局より昭和五十一年度事業報告および決算報告がなされ、五十二年度予算案・事業計画案が提出された。審議の結果これらは承認された。第二日午後は午前にひき続き二会場に分れて研究発表が行なわれたが、研究発表者とテーマは次のとおりである。

- 1、『正法眼蔵』における正法の意義
松ヶ岡文庫研究所研究員 新保 哲
 - 2、道元における愛の諸相 仙台市立女子高校教諭 加藤 健一
 - 3、初期日蓮の国家観 東北大学大学院 佐藤 弘夫
 - 4、鎌倉旧仏教の神祇観―解脱房貞慶の場合―
筑波大学講師 広神 清
 - 5、親鸞研究界への九つの問い 古田 武彦
 - 6、近世における天命観について―石田梅岩の思想より―
武蔵大学大学院 小森 信之
 - 7、熊沢蕃山の経世済民の思想―その基本的構成について―
東北大学助手 佐久間 正
 - 8、『滝川心学論』に関する一考察
学習院大学大学院 山本 真功
 - 9、島津斉彬小論―一橋派外様大名として―
九州大学教授 山口 宗之
 - 10、岡倉天心の東洋観 同志社大学大学院 露口 卓也
- 大会第三日は、知恩院の見学が行なわれた。参加者は五十余名であった。